

駅で貨物列車と対面する。この女子学生も含め、高校生の大半は八雲駅で降りた。八雲駅には、7時13分到着。



ホテル内



盲導犬



温泉ホテル



長万部駅



長万部駅



八雲駅



昨日は気がつかなかったが、八雲駅を降りるや否や“赤い八雲山車行列の提灯”が目に入った。駅員さんに“鷲ノ巣駅”についてお尋ねする。予想通り、「本年3月26日のダイ

ヤ改正で廃駅になった」とのことだった。種々の角度から八雲駅をデジカメに収め、リュックを背負い、昨日と反対方向の山越駅に向かって出発する。駅前には、明治安田生命や本日宿泊する黄色いビジネスホテルプレスコがあった。7時28分、高速下を潜る。7時45分、国道5号線に出る。交差点には八雲自動車学校がある。7時50分、函館72km、森30kmの道路標識を目にする。その先の熱田という地名で八雲跨線橋がある。この橋で鉄道が左側となる。8時1分、八雲町浜松で上り貨物列車が通過して行く。それにしても、貨物列車との対面は結構多し。8時7分、36歩ある浜松橋を渡る。8時10分、八雲町立八雲小学校前を通過。8時20分、鉄道が海岸線近くを走る。8時30分、函館まで70km地点を通過。その先に、函館70km、森27kmの道路標識あり。8時35分、山越跨線橋を渡り、鉄道の左側となる。景観のいい海岸線を経由し、山越駅には8時52分到着。



山越駅



森 22 km

野田生中学校看板

駅舎はかつて山越内関所の匂いがする建物であった。説明書の看板によると、日本最北の関所とあった。この関所を境にして、蝦夷地と和人地を区分していたらしい。この地に滞在し、色んなアングルから駅舎近郊の情報をデジカメに収める。駅前には八雲町漁協や水産工場があった。9時15分、中央山越バス停（函館バス）を通過。9時19分、船と犬に対面。9時28分、赤い鳥居がある社前通過（稲荷神社）。9時49分、野田生の地点に到達。10時沼尻バス停を通過。この近郊の道路標識は函館65km、森22kmとあった。10時8分、ビジネスホテルプレスコの看板があった。この近郊の水田風景は、実家の香川と同じように見えた。10時15分、野田生小学校入口前通過。本来ならば、この交差点を曲がって行けば、野田生駅に到着すべきところ、誤って1km位先を進む。すなわち、10時21分、八雲

町立野田生中学校前通過。10時25分、野田追橋（野田追川）の途中で、行き過ぎていることに気付く。運よくジョギングしている若者と対面し、野田生駅を歩き過ぎていることの確認を得る。「小学校入口まで戻って下さい」とアドバイスを頂く。小走りで小学校入口まで戻る。30分位ロストした。10時36分、野田生神社前を通過。この近くの公園で園児の集団が印相的だった。2番目の孫より幼少であった。10時43分、やっと本日2番目の野田生駅に到着。



野田生神社



野田生駅



幸村農園



野田追橋

10時46分、犬と対面。その先に幸村農園(平成28年大河ドラマ主演真田丸：信繁)があった。10時51分、小学校入口に繋がる国道に戻る。久しぶりの青空でサングラスを着用する。10時55分、再度中学校前入口前を通り、野田追橋手前には10時58分到着。この橋は、縁起よく222歩あった。橋を渡ると東野の地名であった。11時11分、上り坂で風強し。11時16分、野田生跨線橋を渡り、鉄道の右側となる。11時26分、旭丘という地名で函館62km、森20km地点に到達。11時31分、道路下に海岸線をJR線が走る。11時39分、上着を脱ぎ人相が悪いがタオルを被る。風光明媚な海岸線を歩く。天気もよく、太平洋は青かった。ここから暫く歩くと、遠くに駒ヶ岳を眺めながら歩くことになる。12時3分、函館まで60km地点に到達。その手前に落部の地名があり、「落部駅近し」を感じる。12時11分、208歩ある落部橋を渡る。12時21分、落部駅に到着。



函館まで 60 km 落部駅

12時26分、落部小学校前を通過。12時39分、入沢という地名に到達。12時51分、鉄道は道路下の海岸線を走っていた。津波を考えると危険な位置だった。自転車野郎と対面する。12時59分、更に栄浜近郊で2人の自転車野郎と対面する。13時7分、ドライブインやかた（二海郡八雲町栄浜）で味噌ラーメンを頂く。旅先で昼食を摂れたのは、今回が初めて。16日から21日までは、思うようなターニングで食堂と対面できなかったため。20分位休息する。13時44分、栄浜のバス停あり。13時46分、八雲町立栄浜小学校前を通過。13時50分、八雲町栄浜から森町石倉の地名となる。花と駒ヶ岳が森町のシンボルにあった、13時53分、石倉のバス停前に到達。



海岸線を歩く やかた



森町へ 石倉

ここで、店の方に「石倉駅はどこでしょうか」と尋ねたところ、「先とのこと」のアドバイスを頂く。後で考えると、ここから坂を下った先に石倉駅があったと思われる。学習を通じて判明。それ故、今回唯一石倉駅が踏破できなかった。「意外に近隣に住みながら、駅舎の位置を知らない」と。いい勉強になった。聞いた人が日本人でなく、東南アジア系の人だったので、意味が分からなかったかも知れない。また、お隣に本石倉駅と錯覚したのかも知れない。14時6分、前方に初めて海面に浮かんだような駒ヶ岳が見えて来る。頂きには雲を被っていた。これから、この雲の形の変化を楽しみながら歩くことになる。14時11分、JR線がトンネルを潜るため、右側となる。この辺りで石倉駅の未踏破に気付く。しかし、時既に遅し。14時25分、5m位上がった先に本石倉駅があった。



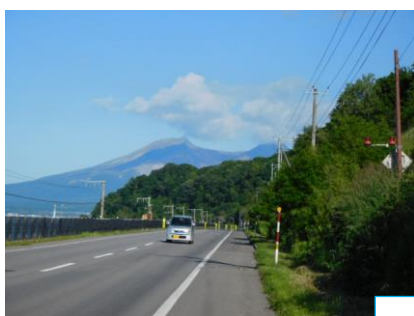
本石倉駅

丁度上り列車がやって来る。14時33分、石倉漁港への案内板前を通過。14時36分、赤い鳥居をもつ社前を通過。14時39分、漁港の風景となる。14時46分、石倉学校前を通過。14時50分、濁川橋通過。14時55分、函館55km地点となる。大分、駒ヶ岳が近くに見えて来る。海には船が見える。15時7分、前方にくっきり駒ヶ岳が見える。中央に窪みを発見する。これまで窪みなしと考えていたが……。頂きの雲が色々幻想的に変化していく。2年前に他界した愛犬セブンがこちらに向かって、何かメッセージを言っているような気もした。「これまでありがとう。天国から応援しています。頑張ってください」と。15時21分、上本茅部バス停前を通過。ここでも犬と対面する。15時22分、石谷駅前（いしや）のバス停を通過。しかし、JR駅は直ぐ前にあったが、気がつかず行き過ぎる。

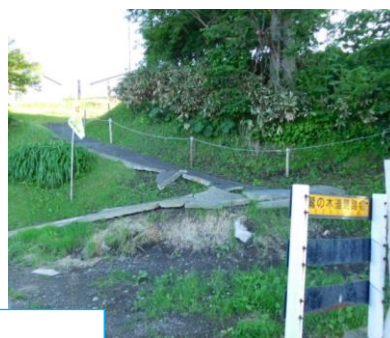


駒ヶ岳を観ながら歩く 石谷駅

正に「灯台もと暗し」がぴったりの場面だった。ここから 33 分ロスする。数人の人に聞いてやっと 15 時 55 分、石谷駅に到達する。15 時 22 分通過の石谷駅バス停前にあった。見落としもいいところである。自分のばかき加減にあきれ果てた。16 時 5 分、蛭谷（えびや）バス停で行き過ぎているのに気がついた箇所に戻る。16 時 10 分、長い蛭谷跨線橋を通過。JR 線の右側となる。16 時 35 分、464mある「湯の崎トンネル」越え。トンネルを出ると、函館 46 km地点だった。森の街並みとなる。16 時 52 分、史跡公園前バス停を通過。17 時 3 分、富士見という地名がある。富士山も見えないのに何故富士見か理解できなかったが、駒ヶ岳を富士に見立てれば理解できる。3 人の方に聞いて、やっと桂川駅の道筋を見つける。森駅からは比較的簡単に見つけられるが、石谷駅方面からは難しかった。3 人目にお尋ねした場所がよかった。親切にも懇切丁寧に教えて頂く。「この道を下ると道路に出ます。途中踏切を横切り 10 分位戻った先に桂川駅があります」と。途中通行止めのような柵があったが。幹線道路から高低は 50m 位あつただろう。桂川に続く道路は海岸線に沿ってあつた。



桂川駅への路



桂川駅

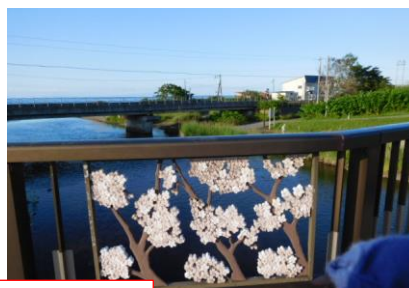


17 時 7 分、鷺の木踏切を横切り、鉄道と海岸線の間を歩く。17 時 14 分、桂川駅に到着。ホームは道路から 10m 位高台にあつた。ホームから漁港が一望できた。17 時 22 分、ペンを落としそうになるが、直ぐ気がつき安堵する。17 時 22 分、再び鷺の木踏切まで戻る。ここから海岸線に沿って歩く。鉄道が左手にあつた。17 時 26 分、赤い鳥居をもつ社を通過する。それにしても赤い鳥居を持つ社が多いのにはびっくり。17 時 33 分、富士見町バス停前通過。17 時 47 分、島崎バス停前通過。今歩いている道路は「3・4・8 大通」（道道森砂

原線)とあった。17時53分、130歩ある島崎橋(島崎川)を渡る。この橋の欄干には染井吉野が描かれていた。森駅には18時1分到着。何人かの人に聞いて、ビジネスホテルプレスコには18時31分到着。306号室。クーラーが100円だった。久しぶりに喉が渇いていたので頂く。部屋は倶知安や長万部と同様、エアコンや冷蔵庫の設備はなかった。その分料金が安かった。一服して、夕食はホテル紹介の「みどりや」で摂る。お好み焼きがとても美味しかった。ご主人のウォーキングについて語らしてもらおう。食事の後、明日の朝食用にラルズマートで買い物する。これまで見たことのない機械でのタイムリーな自動精算にはビックリ。本日の営業キロは31.6km、万歩計は67,348歩だった。本日は石倉駅を踏破できなかったが、天気にも恵まれ、駒ヶ岳を中心とした風光明媚な風景を堪能でき充実した一日となった。



島崎



島崎橋



森駅



ビジネスホテルプレスコ



みどりや



第10節 9日目：6月23日(木) 曇り

4時過ぎに起床。5時頃ホテルから森駅まで散歩に出る。ダイヤの確認と駒ヶ岳回りと砂原回りのどちらがメインなのかを駅(5時24分)で問い合わせるため。「駒ヶ岳回りがメイン」とのことだったので、また、長万部のマスターの金子さんの提言も反映して、当初の砂原回りを変更する。この変更により、営業キロが12.8km短縮となる。結果、大沼駅から新函館北斗駅(渡島大野駅)まで歩くことができる。



国道5号線への路



富国産業 姫川小学校前

6時20分、ホテルをチェックアウト。6時28分、清澄橋を通る。3.4.4 清澄通を歩く。6時29分、青葉ヶ丘公園と森町役場を通過。6時36分、桜並木(染井吉野)が広がる公園があった。6時40分、森町立森小学校前を通過。6時42分、花水木の見送りがある。6時47分、やっとのことで国道5号線に出る。本日は駒ヶ岳を左にして歩く道筋である。7時2分、富国産業(株)森営業所前を通過。駒ヶ岳は雲に覆われていた。7時10分、函館41km地点に到達。7時19分、森町姫川に地名を通過。しかし、ここから迷いに迷って姫川駅への到達となる。10分位引き返し、姫川小学校通バス停から脇道に入る。7時43分、右手に貨物列車を見つける。ここで、この列車が上りと勘違いしたのが大きな敗因。方向性を誤る。8時3分、三上製材所がある。更に直進し、森駅方向に進んでいた。何んとなく、駒ヶ岳の左側になっていた。ここで、自分が進んでいる方向が誤っているのに気付く。ニセコ以来2度目の失敗である。何人もの人に聞いてやっと軌道修正する。8時25分、姫川第

2踏切を通過し、鉄道の右側となる。8時37分、岸本製作所がある。この製材所を右折し進む。この近郊でも姫川駅を尋ねるが、正確な回答は得られず。疑心暗鬼で直進する。運よく、森林の中に、姫川駅への案内板がある。8時42分、蜂の人形がある。しかし、ここから姫川駅への道筋はややこしかった。右往左往しながら、やっと8時56分、姫川駅に到着。



姫川駅



5.3kmの営業キロに約2時間半要する。それにしても難しい駅舎の立ち寄りであった。この駅からメイン道路に出るのも苦労する。結局、姫川駅への案内板まで戻る。9時12分であった。今日の歩きは難しいのではと自問自答する。9時23分、東山第二道路踏切を横切り、鉄道の右側となる。この辺りでみどり生命の青柳さんから電話が入る。「外債PTのメンバーになった」との連絡であった。9時52分、東山のバス停の看板を見つけたで、多少躊躇したが、脇道に入る。10時3分、東山第一道路踏切にぶつかる。ここで、踏切停車したドライバーに東山駅を問い合わせる。運よく「踏切を渡らず、小道を50m歩いた先に東山駅があります」の回答を得、元気が出る。東山駅には10時6分到着。ホームは板張りの粗末な駅であった。駅舎はなかった。昨年踏破した宗谷本線の駅を思い出した。姫川駅で手こずった分、この駅でロスタイムを取り戻すことができた。10時18分、国道に戻る。10時25分、函館ナンバーの親切な方が私の前で車を止められ、「どこまで行かれるのですか。車でお送りしましょうか」と助け船がある。小沢駅手前以来2度目である。「有難うございます。歩きのため、神奈川から来たので結構です」と丁重にお断り、別れる。前回の親切な方は70歳位の夫婦連れのご主人、今回は50歳位の夫婦連れのご主人だった。感謝

感激で言葉なし。10時50分、函館まで36km地点に到達。



東山駅

11時1分、森町西山で防災に関するアナウンスが聞こえてくる。その先で確認のため、駒ヶ岳駅の道筋を確認する。70歳位の年配の男性だった。JAFの拡大地図を持参しての歩きであるが、国道5号線からの脇道が分からないために、「直ぐ先の信号を曲がった先です。お宅はどちらから。先日も歩きの方に聞かれました。色々な人に出会うのが楽しみです。気を付けて旅を楽しんで下さい」と親切な応対がある。これに対し、丁寧に対応し、お礼を言ってこの場を後にする。11時11分、右手500m位先に高速道路が見える。ワールド温泉牧場入口近郊。11時16分、長万部行のバス（函館バス）と対面する。函館バスの停留場は、長万部駅から函館駅にかけ随所で見かける。11時22分、前田新聞店前を通過。読売新聞、道新スポーツ、北海道新聞が掲示されていた。その先に駒ヶ岳小学校の案内板があった。11時26分、駒ヶ岳駅に到着。



駒ヶ岳町案内図 駒ヶ岳駅

階段を使って正面の駅舎に向かう。駅前の郵便局で赤井川駅方面を伺う。5号線に戻り、レストラン先を曲がれば行けるとの情報を得る。11時40分、5号線に戻る。11時57分、函館まで33km地点に到達。12時6分、赤井川の地名を見かける。12時14分。板小屋沢バス停前通過。12時40分、駒ヶ岳登山道の看板を見つける。年金保養基地入口のバス停か

らは、白山のような山を肉眼で捉えることができた。12時47分、函館まで30km地点に到達。12時55分、郵便局員さんに教えて頂いたハンバーガーレストラン前に到着。念のため、ドライバーの方に赤井川駅への道筋をお伺いする。予想通り、直ぐ先の交差点を左折して行った先にあるとのことであった。スマホで親切にも調べて頂く。私の歩きでは、危機に到達しない限り、原則スマホをしない方法で旅を楽しんでいるから。13時、「赤井川特別母と子の家」があった。赤井川駅には、13時4分到着。駅舎は森の中にあった。何人かの作業工事者を見かけた。



レストラン 赤井川駅

13時14分、国道に戻る。13時16分、赤井川バス停前を通過。13時21分、55歩ある宿野辺橋（宿野辺川）を渡る。13時44分、七飯（ななえ）町西大沼から道道43号線（大沼公園鹿部線）に入る、13時45分、横川バス停を通過。森林が続く道路を歩く。14時8分、小沼が見えて来る。14時10分。北海道カントリークラブ大沼コース前を通過。14時24分、前方を下り列車が通過して行く。14時25分、観光客の方に小沼を背景に写真を撮ってもらい、14時26分、山水道道踏切を横切り、鉄道の左側となる。その先につきみ橋があった、この橋から、大沼と小沼が一望できた。この一帯が大沼国定公園であった。14時45分、大沼公園駅に到着。



大沼公園 大沼公園駅

駅前には観光客で賑やかであった。ソフトクリームを頂く。この駅から少し歩くと、砂原からくる鉄道があった。森駅から大沼駅までは単線。大沼公園駅から大沼駅にかけて複雑な道路となっていた。確認のため、郵便局前の通行人の方に道筋を確認してから進む。広々とした駅前広場をもつ大沼駅には 15 時 14 分。



大沼駅への道路標識 大沼駅

ここで打ち止めも考えたが、仁山駅、新函館北斗駅を目指すことにする。駅前で「どこから来たの。どこまで行くの」と年配の女性に聞かれる。「これから仁山、新函館北斗駅を目指して歩きます」と応答。「頑張りなさい。車が多いので気をつけて下さい」と激励あり。ここから、新函館北斗駅まで 9.1 km。その前に 5.8 km 先の仁山駅に立ち寄りが前提なので。ここから速足となる。何とか 18 時位までに新函館北斗駅に到着したかったため。15 時 35 分、右手には鉄道と小沼があった。15 時 47 分、函館山の標識を見つける。15 時 51 分、国道 5 号線に合流する。15 時 53 分、大沼こ線橋を渡る。



仁山駅への路

15 時 55 分、万歩計で 1051 歩ある大沼隧道を通過する。トンネルを出ると函館 23 km、七飯 8 km の道路標識あり。山道が続く。16 時 10 分、鳥越こ線橋を渡る。16 時 14 分、鳥越橋通過。16 時 21 分、峠橋通過。16 時 25 分、右手 30m 位上に JR 線あり。16 時 29 分、峠下橋通過。16 時 37 分、国道から右折すべき交差点に到達。16 時 42 分、仁山駅通バス停を通過。その先で右折する。念のため、畑仕事をしている方に仁山駅への道筋をきく。「真

っ直ぐ行った先にあります。仁山駅よりも新函館北斗駅に向かった方が列車の便が多いのでいいですよ」とアドバイス頂く。「有難うございます。わかりました。その前に仁山駅立ち寄りが私のこだわり鉄道歩きですから」と言って別れる。16時51分、仁山踏切をと横切る。16時56分、仁山駅に到着。



仁山駅

駅前から直ぐ先に大型レストランがあった。16時59分、先程の踏切近くで2頭の犬から挨拶を受ける。17時7分、再度幹線道路に戻る。17時11分、仁山橋あり。17時33分、中渡架道橋を通過。鉄道の右側となる。17時42分、赤い鳥居前を通過。17時52分、新函館北斗駅のための駅の看板を見かける。“渡島(おしま)大野駅”とあった。18時、予定通り、新函館北斗駅に到着。駅前はまだまだ閑散としていた。駅前一体は工事で忙しそうであった。駅構内は沢山の観光客がいた。18時10分発の特急で函館駅へ。乗車券は360円、特急券は310円だった。函館駅には18時27分到着。東横イン函館には18時45分頃到着。朝市場通りにあり。直ぐ函館駅からわかる。1005号であった。夕食は近くの食堂でほっけ定食を頂く。本日の歩きは、31.6km、万歩計は71,315歩だった。本日も予定通り歩け、充実した一日であった。



新函館北斗駅



特急で函館駅へ



函館駅 東横イン



朝市場通り

第11節 10日目：6月24日（金）晴れ

6時過ぎ起床。ホテルで朝食を摂り、荷物を預け、7時47分ホテルを出る。朝市場通りから掛け声がある。函館駅前と駅舎内を色々な角度から記念写真。8時18分の列車(1両編成)で新函館北斗駅に向かう。新函館北斗駅には8時44分到着。本日の歩きは平坦で正に北海道踏破の花道としてふさわしいコースであった。本来ならば、日本列島縦断の旅が完成するところであったが、生憎熊本地震の影響で延期となったが。駅前を色々なアングルから撮影し、七飯駅(ななえ)に向けスタートする。七飯駅まで大半が新幹線沿いの歩きとなる。水田沿いに新幹線が続いていた。8時54分、新幹線の開業ポスター前を通過。9

時 30 分、新幹線下を潜る。近くに新幹線全車両を収納する位の長い施設あり。9 時 37 分、函館新幹線総合車両所バス停前を通過（函館バス）。辺りは工事現場があり、トラックの往來のため交通整理をしていた。9 時 40 分、122 歩ある久根川（久根川橋）を渡る。10 時 3 分、七飯架道橋があった。下を潜り、鉄道の左側を歩く。10 時 10 分、セブンイレブンの交差点で右折し七飯中通を歩く。10 時 21 分、七飯駅に到着する。



函館駅



新函館北斗駅



七飯駅への路 七飯駅

ここから新函館北斗駅から函館駅まで快速の開通により、非電化から電化に拡充されていた。10 時 27 分、上り特急列車と下り貨物列車が通過して行く。500m 位先に新幹線があった。10 時 33 分、鶴野道路踏切で上り快速列車が通過して行く。そう言えば、七飯駅の待合室で沢山の乗客が待ち合わせていたのを思い出した。暫く、鉄道に沿った小道を歩く。10 時 58 分、国道 5 号線で大中山の看板を見つけたので、「大中山駅近し」と思い、500m 位離れた踏切の方向に向かう。すなわち、農学校道路踏切（11 時 4 分）まで確認のため。

しかし、まだまだ駅舎らしきところは線路から見えず。再び国道に戻る。確認のため 10 分位要する。11 時 11 分、赤松並木日本の道百選に出る。国道 5 号線に沿って、左右に松にナンバーをつけた松並木が続いていた。左手がブルーナンバー、右手がピンクナンバーとなっていた。11 時 15 分、ブルーの 225 番の松ナンバーをデジカメに収める。11 時 11 分には 222 番のピンクのナンバーを。歩く都度、松ナンバーが減少して行った。11 時 20 分、高見下バス停前を通過。11 時 28 分、湯出川バス停前を通過。11 時 32 分、義理父親を思い出す幸通りがあった。11 時 34 分、村社大中山神社前を通過。その近くに大中山中学校の看板を目にする。11 時 38 分、赤松街道の道路標識を見つけた先に大中山駅（11 時 43 分）があった。丁度、貨物列車が通過して行く。松ナンバーはブルーで 153 番、ピンクで 143 番であった。



幸通りと赤松街道

大中山駅



赤松 153 番

七飯町立大中山小学校前

11 時 51 分、七飯町立大中山小学校前を通過。“はばたけ未来へ夢のせて” の大きな看板を目にする。小振り化している考え方に栄養剤を与えるエールだった。11 時 54 分、七飯町大川を通過。12 時、函館まで 10 km 地点（すすき野通り）に到達。間もなく歩くと、くるみ通りに出くわす。ここで、リュックを背負った人に出会う。「松のナンバーはどこまで続きますか」の質問を受ける。「少なくとも、300 位は続くでしょう。どちらからお見えですか」と応対。「香川県から来ました。本日松前から歩いて来ました。街道歩きでこれから 7 月 18